

こんにちは。皆様、いかがお過ごしでしょうか?

今回は、学年の先生に寄稿してもらいました。いつもありがとうございます。

「お父さん、今日クラスの生徒に初めて会ったよ。

学年の先生たちとも上手くやっていけそう。」

4月の始業式の日、仕事を終えて車に乗り、そう話したのを思い出します。

この「1日の報告」の日課は10年以上続いています。話し相手は空の上にいる私の父です。

14年前、父は他界しました。自死でした。その日、当時働いていた学校に母から電話があり、急いで帰宅した私を待っていたのは父の変わり果てた姿。亡くなった父を最初に見つけた母は憔悴しきった表情でした。時代の流れと共に自営業で行き詰っていた父は鬱状態になっており自ら死を選びました。母も姉も私も、父の状態が少しでも良くなるよう傍にいたつもりがーこの日以降、家族でありながら父を救えなかった自責の念と、残された家族が抱えるであろう苦しみを考えることも無く一人この世を去った父に対する怒りが入り混じる葛藤が続きました。

父の部屋から見つかった大量の遺書には、家族一人ひとりに対する謝罪の言葉と共に、父なりに私たちに託す願いが記されていました。当時、講師をしていた私には「教員試験に合格して、立派な教員になってください。心から応援しています。」というメッセージ。その時は到底無理だと強く感じたのを覚えています。一番大事な家族さえも守れなかった私が教員になる資格は無いという考えにしかなりませんでした。(後に、父の願いを叶えてほしいと背中を押してくれたのは母でした。)私の部屋の机に、前日(バレンタインデーでした)の夜に父に渡したはずのチョコレートの箱を見つけました。箱を開けると、「今年のチョコもとてもおいしかったよ。半分ずつ食べようね。ありがとう。」というメモと、残されたチョコが2つ。亡くなる直前に置いたかと思うと胸が痛みました。

この14年間、父のことを想わなかった日は1日もありません。もっと父と色々な話をしたかったし、日頃からもっと感謝の気持ちを伝えるべきだった。自分の機嫌が悪いからと、素っ気ない態度をとるべきではなかった。後悔ばかりです。上に書いた「1日の報告」の日課は、これまでの穴を埋める思いでやっています(ある意味、償いに近いかもしれません)。教員として仕事をしている姿は、いつも父から見られているという気持ちもあります。



まずみなさんに伝えたいこと、1つ目。それは絶対に自ら命を絶つようなことがあってはならないということです。この先の長い人生、予想もしない苦しい経験をすることがあるかもしれません。でも、必ず、必ず生きる道はあります。そして人への接し方についていえば、自分の言いたいこと



を主張することだけを優先して人を傷つけるべきではないということ。「死ね」という言葉1つとってもそうです。冗談交じりで友達に言っている姿を時々見かけますが、そんな最低の言葉を使うべきではないと強く思います。

* * * * *

2つ目。休校が続く中で、家族と過ごす時間が増えましたよね。家族とどんな会話をしていますか?ストレスを感じるからと、家族にハツ当たりをしたり、心ない言葉を発したりしていませんか?

私は父の死を機に、時間の重みをより一層強く感じるようになり、同時に、関わる人たちの言動を尊い(時には愛らしい)と感じることが多くなりました。もちろん、家族や同僚、友人と何気なく毎日を過ごす中で、常に“別れ”や“死”を意識して過ごすことなんて、普通は無いと思います。でも、今、目の前にいる家族、日々時間を共有している仲間たちとの1分1秒って、とってもとっても大切で貴重でかけがえのない時間だと思うのです。

私の場合は…今、この原稿を打っている私の横でウトウトしかけている夫、北九州での生活をいつも気にかけてくれる母、忙しい日々を送りながらも色々と相談にのってくれる姉たち。新しい職場に移ってからは、学年の先生方ーいつも視野を広げるきっかけをくださるG先生、冗談交じりのスネた表情がチャーミングなO先生、くだらないバカ話と一緒に泣き笑いしてくださるT先生、ドンと構えて相談にのってくださるK先生、お子さんの可愛いエピソードで癒してくださるT先生、センスのあるブラックジョークがカッコいいK先生、毎朝早く来られてコーヒーの準備をしてくださるY先生、フォップオッフォッと素敵なお持ちのI先生、誰にも真似できないプロフェッショナルM先生、いつも落ち着いたご様子で癒しの存在I先生、真っ直ぐで優しさ一杯のO先生、新婚さんでニヤけが止まらないN先生、豊富な指導法をお持ちのO先生、純粋無垢な乙女T先生、落ち込んでいる時にタイミングよく声をかけてくださるK先生、いつも素敵な香りが漂うT先生、口数少くても発する一言が深いY先生。そして、そう、生徒たち。一緒に並んで歩いたり、笑ったり、何か質問されて答えたたり、目を見て話したりしている時(極々ふつうこと)でさえも、“大切な一瞬”と考えて毎日を過ごしています。

* * * * *

3つ目。「(ホントは不満を感じてるかもしれないけど)よく不満も言わずに、仕事をするね」と言われることが多くなりました(いや、ホントは無意識に口にしている気もしますが)。でもこれも、父の死の影響という自覚があります。あの時以上に辛く苦しいことは無いように思えるからです。「そんなに何でも引き受けると、都合のいい人と思われるよ。」と友人から忠告を受けたことがあります、「それでいい」と私は思います。何でもやってみれば失うことより得ること、学ぶことが多いし、何よりも「立派な教員になってくれ」と願った父の意に沿うものだと思うからです。

* * * * *

なんだか思いつくままに書かせていただきましたが、(最後まで読んでくれてありがとうございます。)最後に一つだけ。ここまで読んでくれたあなたが、この後、これまで同様、もしくはこれまで以上に、家族や周囲に対して日頃の感謝の気持ちを素直に表現できる人であってほしいと思います。

おしまい。